# JCI Morioka Values

2023特別号

## [対談]自然とひとの共生できる社会

**小野寺 数馬** × **兒玉 則浩**

一般社団法人　盛岡青年会議所　2023年度理事長

株式会社MOVIMAS・株式会社八幡平スマートファーム　代表取締役

- 2023年度理事長あいさつ・理事紹介
- 青年会議所の事業実績
- 2023年度年間事業計画

本広報誌は、インターネットからも閲覧できます。▶

対談

# 自然とひとの共生できる社会

株式会社MOVIMAS
株式会社八幡平スマートファーム
代表取締役
**兒玉 則浩**

一般社団法人盛岡青年会議所
第71代理事長
**小野寺 数馬**

## 自然とひとの共生について

**小野寺理事長（以下小野寺）**：盛岡青年会議所は「明るい豊かな社会」の実現に向けて単年度制で運動を起こしている団体です。2023年度は「自然とひとの共生できる社会」という所信を掲げて運動を展開させていただくのですが、非常に八幡平スマートファームさんと親和性が高いと思い、今回の対談オファーをさせていただきました。早速ですが、八幡平スマートファームさんについて事業内容等のご説明をお願いいたします。

**兒玉**：よろしくお願いします。始めたきっかけは株式会社MOVIMASのITの事業をやる中で講演会を開催する機会があり、そこで八幡平市の職員とお会いする機会がはじまりです。八幡平市は農業と観光に力を入れておりITの技術を活用して自分たちのまちの地域資源を活用した復興・再生という事業を民間と協力して出来るような形づくりをしていきたいというお話があり、私自身、岩手県八幡平市に行ったこともなく岩手県自体も行ったことがなかったため、行ってみますねということで、2016年の12月に一度伺うという機会がありその後に田村正彦前市長とお会いしたところがきっかけです。我々は実証をまずはやることが必要なので、八幡平市では誰もやっとことがないことをやりたいと思いました。まずは、地域の特産や生産物を調べ、地域資源には温泉があることを聞きました。そこから何かできないかを模索し、当時はパクチーが主流になっていた時期でもあったので、協議を重ねていく中で最終的にシソ科のバジルになりました。当時はバジルとは何？野菜？みたいなレベルでしたので逆にそれが良かったのではないかと今では思っています。2017年6月に企画書を作成し、同年8月には工事着工し、10月には試作のバジルを作りました。私はプロ農家ではなく素人ですが、得意分野であるITを使うとこんなことができますよと実証バジルのお披露目をしたのがスタート地点です。元々は、寒い八幡平市においても温泉の熱を活かして年中農作物を作りたいとオーダーがありました。バジルは20℃以上の気温条件を保つことがで

きなければ育たないので、越冬試験を12月からの3ヶ月間行い成功させることができました。その後は商業化ということで、高石野団地をご紹介いただきました。30年以上も前から地元の有力企業を中心に、松川地熱発電所から供給される熱水を冬場の暖房に活用する熱水ハウス（ビニールハウス）での農業に取り組んできました。しかし、昨今では高齢化の影響で離農者が増え、施設の老朽化の問題もあり、耕作放棄された熱水ハウスが衰退の一途を辿っておりました。また、ここは安比にも繋がるレインボーラインということで皆さんが通るような場所でそこが廃墟になっていたのではかなり厳しいという状況でした。そこで、八幡平スマートファームという会社を市と一緒に2019年1月に立ち上げました。そこから高石農業野菜生産組合という温泉を活用する組合を2019年8月に市に協力してもらい事業継承をさせていただき、その後並行で地元の方、地元の金融機関にお声がけをし、10月にそれが確定し、そこから着工して事業の方に入るということでようやく2020年の6月にこのハウス12棟が竣工ということで立ち上がりました。ですので、我々がやってきたことというのは、IoTの技術と地域資源を活用して我々の循環型社会のモデルを創造するということを目指していました。それがこの八幡平市でのスタートです。ここ八幡平市から岩手県、東北、全国へというような取り組みは徐々に広がっていったというところです。

**小野寺：**八幡平市は、1966年に日本初の商用地熱発電所である松川地熱発電所が立地でしており、半世紀以上経た今も稼働を続けています。2019年には松尾八幡平地熱発電所の運転が開始し、新たに安比地熱発電所も建設に着手する等、地域資源の豊富な地域ですが、注目した部分でしょうか。

**兒玉：**やはり前市長もおっしゃってたのですが、ここには日本で初めて商用稼働した松川地熱発電所があると言われました。他には岩手山や国立公園の麓にある高石野団地でやるこの産業っていうのはこれから注目されるだろうとおっしゃっていました。八幡平市のことを知れば知るほど、ここで何かやったみたいと思いは強くなりました。気が付くとたくさんの方々から反響をいただくまでになりました。八幡平市の魅力は、会社のパンフレットでも詠わせてもらっています。

## 地域循環共生圏とローカルSDGs

**小野寺：**私が所信で掲げた「自然とひとが共生できる社会」ですが、国連「持続可能な開発目標」（SDGs）や「パリ協定」といった世界を巻き込む潮流や複雑化する環境・社会・経済の側面が複雑に関わり合う現代において、まちをより良くするためには、社会経済活動に環境配慮が織り込まれる必要があると考えています。環境省では「地域循環共生圏（ローカルSDGs）」を提唱しています。これは、地域資源を最大限活用しながらも環境が損なわれないように経済を回して社会課題を統合的に解決することを目指しています。自然環境の再生への道筋を考え、地域資源の恩恵を将来にわたって享受できる社会を目指していかなければならないと思います。八幡平スマートファームさんの取り組みとして地域資源の活用はもちろんですが、その他どのような社会課題の解決を考えておりますか。

**兒玉：**まずは社会課題ということで、皆さんこの八幡平市の地域で掲げてることだと思いますが、新たな産業創出が無いんですよ。そして技術の革新がないんですね。そうすると、私も市といろいろやっているので思うことや教えてもらうことがたくさんあるんですね。また人口の流出、特に若い世代の流出も課題としてありますね。市と話す機会があり、その要因は何ですかと聞くと、魅力的な仕事や継ぎたい仕事や学びたい仕事など、多分そういった点が少し足りないというか弱いというのがあるんだと思います。例えば今で言ったら農業の就業人口はどんどん下がってますけど、その中で新しい取り組みとしてスマート農業というのがあり、でもやはりなかなかできなかった。前市長もこの10何年かけてそれをなかなか浸透させ、進行していくことができなかったとお話をされていました。逆にそこが私の得意な領域とマッチをして、再生につながったということは人の雇用創出にもつながりました。やはり皆さん心配されていたんです。仕組みを作った後に、今度は人が実際ここに入ってくるのかどうかということなんです。もし入ってこないということになると、魅力的な仕事や自分でやってみたい仕事、継ぎたい仕事ではなかったという事じゃないですか。なので、特に我々は求人募集をほぼやっていなく、どちらかというと皆さん自分たちで私が行きたいです。ここをやりたいですと自分たちがドアノックしてくるような人間ばかりです。基本的に全員そうですね。

**小野寺：**働いている方は農業未経験者の方が多いと聞きました。また雇用創出以外にも新規就農支援もやられてますが具体的にはどのようなことですか。

**兒玉：**私も含めて全員未経験者ですね。ちなみに第1号の社員は市役所の職員です。市役所と話を進めていく中で、職員を紹介すると話にもなりました。その方は最初臨時ではあったのですが、今は退職しこちらで働いてます。その後も私もやりたいですと手を挙げていただき今では3名の元市役所職員の方がいますね。また新規就農支援をやってて、八幡平スマートファームを立ち上げたときに新規就農支援の仕組みを市と連携して作ったんですよ。一緒にそれを掲げていて、ここでの経験を実装させて、実際に独立するためにここをステップして、八幡平市の農林課や商工観光課にも支援していただき制度としてはもう整備はしています。実際には、同じ東北圏内で自らここで働きたいと手を挙げて4月から移住定住し挑戦している人もいます。

## 地域課題と地域資源の活用

**小野寺：**実際に挑戦されている方も既にいらっしゃるんですね。雇用創出をすることによって人口減少への社会課題へのアプローチはもちろんですが、就農人口増へもつながり次の世代も働きたいと思える循環ができていますね。とある記事では農福連携のモデルとしても今注目されていると拝見しました。

**兒玉：**アクティブシニアというカテゴリーで、いわゆる元気なんだけど定年を迎えました。その後に何か働ける場所はないのかとかですね。例えば働くといっても、楽しく働ける場所はないのか、シルバー人材センターとかに行くのではなくて何か自分がやりたいこと、そして観光も楽しみながらアクティビティを楽しみながら何か新しいことをやれないかとなったときに、うちで言うと、例えば農作業します。といっても土をいじってるというよりもなんかあんまり汚れないじゃないんじゃないですか。実際素人でもその場で即日仕事ができます。収入も稼ごうと思えばそれで稼げますと。それと、立ちながらの仕事なので、腰への負担だとかそういったのも少ないというようなことで、参入障壁がもうそもそも下がった。そして、私が得意とするIoTを活かしたスマート農業になっているので、福祉の領域×スマート農業みたいなところとかですね、いろんな掛け合わせが出てきてるっていうことですね。農福連携もそうですし、今進めているのは、農泊連携ですね。

**小野寺：**それはどのようなものですか？

**兒玉：**八幡平には温泉郷があり商工観光もあります。観光という意味では、例えば別荘として居住先を提供し、そこには我々が使っている松川地熱発電所の源泉をダイレクトで味わえるなど。さらには実際にその温泉の地熱を活用したバジル栽培の体験ができる観光事業と農業を組み合わせたことをやる予定です。近々リリース予定ですので楽しみにしてください。やっぱりそれを整えるのはすごい大変ですがそれを実現させます。いわゆる福祉も移住定住も農泊も商工観光系の観光事業と農業も私はたくさんつながっていると思います。私の中では、循環型社会と広く括ってます。これは地域資源を活かして、新たな産業を作り法人化し技術を蓄積していきます。そしてその技術を伝承し続けていくことが、この温泉をずっと使い続けながら産業をやっていくことになるので、温泉の営を守る事につながります。温泉の管もかなり重要で、ここの温泉が使えなくなってしまうんですよ。今地元でやってるホテルだとかそういったところも、ここの温泉供給するにあたって、市が全部メンテナンスするんすよ。でもメンテナンスすると言っても利用者が少なかったら、単純にメンテナンスコストを確保できない。我々が事業を

始める前と30、40年前の温泉利用量を比較したとき、ほぼゼロに近くなっていたんです。

でも我々が事業をやって、それが当時のスタートしたときを超えるぐらいの利用料になったんですよ。どういうことかというと、これを続けていけば、温泉のメンテナンスコストや市の第3セクターもちゃんと稼働しながら、地域の観光資源のホテルや旅館に温泉がずっと供給し続けられる仕組みの一部にもなるってことです。

**小野寺：**社会課題を解決するに留まらず、再生可能エネルギーに着眼し地域資源を高付加価値化してそれをさらに活用するという流れができていますね。

**兒玉：**そういうモデルなんですよね。なのでやってることに意味があるなると感じています。やり続けることに意味があるし、今この事業が次の世代に引き継げるように体制を作っていくことが私の今のミッションですよ。

**小野寺：**それこそ政府が掲げる2050年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロとするカーボンニュートラルの達成をさらに加速させる取り組みでもありますね。

**兒玉：**通常の栽培は、もし化石燃料を使わないという農業であれば、基本的には炭素吸収型になるので$CO_2$を排出しない方になります。ニュートラル側に基本的にずっと動いてるものです。ただ、絶対に重油はいずれかの方法で使われるんですよね。ここがやっぱりちょっと異次元にちょっと飛び抜けてるのは、化石燃料を使わないっていう、これがですねもう明らかに違っていてバジル栽培するにあたって$CO_2$の排出をそもそもしていない状態で栽培するので、ニュートラルからスタートをしてるんですよね。

**小野寺：**そうですよね。先ほど見学させていただいた時に全てにおいて使われていないんだなと思いました。

**兒玉：**なので、吸収しかない状態で動いているので、これがやはり強みですね。事業をやればやるだけ貢献するってことになるんですよね。プラスに他のところも含めて。農水省が掲げる「みどりの食料システム戦略」の先行事例第1事例としても、地熱を活用したバジル栽培として令和3年度東北食料・農業・農村をめぐる事情へ昨年10月18日に掲載されました。

## 未来を生きる子供たちの為にできること

**小野寺：**社会的な意義もあり事業としてすごいですね。今と未来を生きる子供たちのためにできることとして、兒玉社長が考えるとしたら

**兒玉：**小学生から高校生までの受け入れや講話をしていますが、やっぱりそれだと思うんですよ。勉強の中に組み込むことで地域のことを理解する、地域が何をやってるかっていうの認識するっていうことが、今までなかったと思うんですよ。全くやってないって皆さんも多分認識されてたと思います。なのでここ5年ぐらいでそういうことをやるようになってきたと思うんですけど、やっぱりこれをやるためには、今私がやってるようなスマート農業もそうなんですけど、これを継続させていくモデルを残さないといけない。松川地熱発電所の日本で初めて商用稼働した歴史も、継続していかなければ温泉の還元もできないじゃないですか。理事長がおっしゃってた内容とも近いんですけど、やっぱり続けていくことが先の未来につながり、例えばここだったら産業の革命ですよね。技術の新しい産業を興して、新しい働く場所を起こして自分たちの力によってこれを継続できます。継続することが、地域とのこの社会コミュニティをつくるきっかけになります。地域資源を活用して循環型のモデルが作れます。継続することが、2030年2050年というこれからの温暖化や食料自給率の問題も含めてそれらを勝手に改善してくれるような取り組みのポイントを押さえて事業創造しているので、これをやっていくことが、実は子供たちの次の未来にできることですし、それをやるために私がこれを残さないといけないし、この形を確実に作っていかないといけないですし、渡せるようにしないといけないし、私は大変かもしれないけど次の世代以降はずっと楽になるような仕組みをつくる、そこは私がやっていくことですね。

**小野寺：**先ほどハウスを回りながらゆくゆくは現在の12棟から50棟にして従業員規模250名ぐらいの事業規模にしていくって話でしたが、いろんなIoT化が進む中で、人の力がいらなくなるっていうふうにも言われてる中で、やはり最終的な成果としては人の力が必要となるのでしょうか。

**兒玉：**省力化しているのですがハウス1棟あたりで生産能力は通常のバジル栽培と比較して10倍以上の生産能力があります。本来であれば10倍以上の面積が必要なんですよ。それを機械で省力化して圧縮5分の1にしているのですが、できる成果物はいっぱいなんですよ。途中のプロセスでは、湿度がなくなったら換気扇回したりや必要がないときはもちろん温泉止めてとか、やっぱり人の感覚やセンスには機械は勝てない。人間に勝るのは今の現時点では世の中に知られてるものでは無いという現状なので、そういう意味でいうと機械に任せる部分と、我々がこのコントロールすることでコスト削減をするだとか、無駄なものを使わないだとか、より生産量を上げるとか、最低限のことは自動化で基本的には何もしなくてもバジルはできるんですけど、いいものを作るとかよりもっとこう作る、100%のものはできるかもしれないけど、人がさらに手を加えることで、今のシステムを使えば120%の結果が出るわけですよ。成果をだすにはやっぱり人がやるべきだっていうのを常に思います。ですので生産量がどんどん基本的に上がっていく。なので、最大規模でやはり250人、その生産量を上げていくときに、どうしても成果を出す最後のところだけ人手が必要です。

## 盛岡青年会議所について

**小野寺：**ありがとうございます。最後に青年会議所は、人種、国籍、性別、職業、宗教の別なく、20歳から40歳までの責任世代である青年経済人が集まる団体です。何かお言葉をいただければ

**兒玉：**それぞれプロなので、もう私からしたらその道は全く何もわからないから、ただ言えることは20代から40代っていうことで、私も近い世代だとすると、自分たちのその得意な技術であったり能力だったり、熱意であったり意志も含まれるかもしれないですけど、そういうものってそれぞれ技術×人間力だと思うんですよ。それが継続していけるかってことだと思うんですよ。私自身もやっぱり大変なことですけど、自分が得意とすることは、このモバイルの技術でした。そこで社会のインフラを何かこう変えていく、良くしていくようなことをしていきたいっていうふうにただ思ってるだけなんですけど、これって他の仕事に関しても多分一緒だと思うんですよ。仕事をやるにしても何にしても、自分の得意な多分フィールドがあって、それは得意な領域等でも言えると思うんですけど、それをやっぱり1個1個、意思を持って継続していくことによって、それが最終的に2030年2050年までに解決しなければならない課題とつながっていけばいいので、それをみんなが意識してやっていく、だからそれが多分SDGsであり2030年2050年への道なのかなと思ってるので、それに等しい、ビジョン、それぞれが描き、最終ゴールに行けるようなプロセスを作っていければいいのかなと思います。

2023年度 委員長・委員会紹介

## まちの未来創造委員会

**委員長　鈴木 亮**

会社名：鈴木法律事務所
趣　味：ドライブ

私たちは、もりおかに住み暮らす人々と理想のまちの姿を共に考え、今と未来の子供たちの笑顔が拡がる社会を目指します。

## 国際社会研究委員会

**委員長　鷲見 保博**

会社名：株式会社博扇堂クリーニングセンター
趣　味：旅行、釣り

私たちは、国際的な視野を身に付け個人と企業に前向きな変化を促し、地域社会の問題解決に向けて一歩踏み出し行動できる社会を目指します

## 次世代育成委員会

**委員長　宮野 洵弥**

会社名：株式会社東北工商
趣　味：キャンプ、ゴルフ、野球観戦

私たちは、世界で起きている様々な課題を一人ひとりが自分事として捉え、自身の目的に挑戦し続けながら、持続可能な社会を目指し行動できる人材の育成に寄与してまいります

## 会員開発委員会

**委員長　北條 宏**

会社名：株式会社リスクバスターズ総合保険事務所
趣　味：サッカー、ゴルフ、サウナ

私たちは、まちにより強い影響を与えられる組織へ変革すべく、青年会議所活動をする事への目的意識を持ったアクティブな会員を増やします。そのためにも、会員一人ひとりへ前向きな変化をもたらす機会を提供してまいります。

## JCブランディング委員会

**委員長　髙橋 凌**

会社名：株式会社アプローチ
趣　味：サッカー、ゴルフ

私たちは、青年会議所の存在意義や理念を理解・納得し体現することで会員に対し前向きな変化を促すことと、盛岡青年会議所の運動を届けたい相手、その人の明るい未来を描き、市民へより共感を生む広報を展開してまいります。

# 笑顔の起点になる
## ～今と未来を生きる子供たちのために～

JCI Junior Chamber International Morioka

第71代理事長
**小野寺 数馬**

利己的理由で利便性を追求した人間活動は、地球規模の気候変動を起因とする様々な事象を引き起こし、それらは複雑に絡み合い、人間社会だけではなく地球上のあらゆる生態系に影響を及ぼしています。だからこそ今、人間社会の在り方が問われています。問題を解決するために、まずは私たち一人ひとりの意識を変え、地球環境に配慮したライフスタイルへの転換が求められています。一人ひとりの行動が、ひとを変え、地域を変え、国を変え、やがて世の中全体を変える力となります。

もりおかは、広大な自然環境があり独自の文化と伝統が根付き、歴史がひとを育て、まちを発展させてきました。人々の生活を支えている北上川には、春の清らかな雪解け水が流れる雫石川と中津川が混ざり合い、夏は鮎が踊り秋は鮭が戻り、白鳥の飛来が冬の到来を感じさせます。未来に生きる人々も、同じように四季の移ろいを感じることができているのでしょうか。環境・社会・経済の側面が複雑に関わり合う現代において、もりおかをより良くするためには、社会経済活動に環境配慮が織り込まれる必要があります。それに加えて、地域特性に合わせたまちづくりが不可欠です。地域の社会経済活動は、地域条件・自然資源・人文資源・特産的資源・中間生産物などの地域資源の上に成立しているからこそ、もりおかが持続可能であるためには、社会経済活動によってこれらの地域資源が損なわれないようにしなければなりません。

私が信じる「明るい豊かな社会」とは、自然とひとが共生できる社会です。2023年度は「笑顔の起点になる～今と未来を生きる子供たちのために～」をスローガンに掲げ、運動を展開して参ります。自然とひとが共生する社会の実現とは、自然環境の再生への道筋を考え、地域資源の恩恵を将来にわたって享受できる地域循環共生圏（ローカルSDGs）の構築を意味します。地域循環共生圏は、サイバー空間とフィジカル空間の融合により、地域から自然とひとのポテンシャルを引き出す生命系システムです。これは、地域資源を最大限活用しながらも環境が損なわれないよう経済を回して社会課題を統合的に解決することを目指しています。つまりは、地域循環共生圏の構築は、Society5.0とSDGsの達成を一体で推進させる道筋です。SDGsの達成に向けた行動の10年に入ってから4年目を迎え、人類が地球への責務を果たす日が差し迫っています。私たちは自然とひとが共生できる社会を実現するために、自らが志を高く仲間と英知を出し合い切磋琢磨しながら成長し、喜びや痛みを分かち合い一丸となり、世の中の残酷さや苦しみなどから生まれる怒りと哀しみと向き合い、それでも光を信じ果敢に挑戦していきます。

2023年度も多くの皆さまと協働しながら、より良い社会、まちづくりに尽力して参る所存でございます。変わらぬご指導、ご鞭撻の程、どうぞよろしくお願い申し上げます。

# JCI盛岡 年間事業計画

1月

1月例会・新年交賀会

2022年度に賜ったご支援・ご協力に対する謝意をお伝えします。

2月

2月例会・国際社会研究事業

世界的な観点から地域資源をどのように最大限活用し循環させることができるのかを学びます。業種を超えた人脈づくりの場ともなります。

3月

3月例会・第1回仮会員オリエンテーション

青年会議所の基本理念、運動の意義を改めて理解する機会、会員間の交流の場とします。

4月

4月例会・次世代育成事業Ⅰ

次世代を担う子供たちに向けて青少年育成について運動を起こす機会とします。

5月

5月例会・羅東國際青年商會との姉妹JC交流Ⅰ（渡航）

羅東國際青年商會と交流を通して、相互の地域について学び交流を深める機会とします。

6月

6月例会・第35回わんぱく相撲盛岡場所

大会を通じて、自らの意思で行動することの大切さ、礼節の大切さを身に着ける機会とします。

7月

7月例会・まちの未来創造事業Ⅱ

持続可能な社会の実現に向け、もりおかの未来を考える機会とします。

8月

8月例会・第46回盛岡さんさ踊り

多くの市民に盛岡さんさ踊りの魅力を実感していただきます。

9月

9月例会・出向者連絡会議

出向を通して得られた経験等を共有することで今後展開する運動の更なる向上や力強い発信に繋げる機会とします。

10月

10月例会・OB交流会

OB会員に日頃のご支援・ご協力の謝意をお伝えすることと、交流を深める機会とします。

11月

11月例会・活動報告例会

一年間の活動の方向をすることで、一年の振り返りをするとともに次年度に向け運動意識の向上に繋げる機会とします。

12月

12月例会・卒業式

現役会員が卒業生に対して、これまでのJC活動に対し感謝の意を伝える場とします。

# 一般社団法人 盛岡青年会議所　2023年度会員名簿

| | |
|---|---|
| 赤坂俊介 | ㈱ライフワン保険サービス |
| 池野利彦 | ㈱木津屋本店 |
| 石井優宇 | ㈱日本デスコ |
| 伊藤英佑 | ㈱盛岡総合ビルメンテナンス |
| 岩角慎太郎 | 名鉄観光サービス盛岡支店 |
| 岩舘尚 | ㈲駒龍 |
| 牛渡一王 | ㈱ホーム建設 |
| 内沢達也 | うちざわ登記測量事務所 |
| 内山佳奈子 | 積水ハウスリフォーム㈱ |
| 大和田祐輔 | 田中電子㈱ |
| 小倉征也 | ㈱平野組　盛岡支店 |
| 小田島賢太郎 | ㈱小田島アクティ |
| 小野寺数馬 | ブルーアドバイザーズ㈱ |
| 小野寺竜 | ㈱白ゆり |
| 加藤巧寛 | 加藤総合企画㈱ |
| 川村芳仁 | OYSTER STORY 牡蠣亭 |
| 川村善弘 | 川村商事㈲ |
| 菅洋介 | ロッシュマーノ |
| 菊地佳小里 | ㈱兼平製麺所 |
| 木津川隼己 | プルデンシャル生命保険㈱ |
| 小岩泰武 | ㈱ Bonds |
| 越場慎文 | 桜心警備保障㈱ |
| 齊藤大輝 | ㈱三協メディケア |
| 坂本敏也 | ㈱ Charis |
| 坂本雄太郎 | ㈱坂本屋 |
| 作山智彦 | さくやま司法書士事務所 |
| 笹川亮輔 | ㈱アパートナー |
| 佐々木天晃 | ソニー生命保険㈱ |
| 佐々木昭雄 | ㈱花兵衛本店 |
| 佐々木宏和 | ㈱佐々花不動産 |
| 佐々木文也 | ㈱ LIG |
| 佐藤志学 | ㈱シリウス |
| 重泉愛 | ㈱やよいディライト |
| 下河原伸 | ㈱ FP ホームサービス |
| 菅原直紀 | 一般社団法人スポーティブ岩手 |
| 杉澤伸洋 | ㈱ヒラトヤ |
| 鈴木亮 | 鈴木法律事務所 |
| 鷲見保博 | ㈱博扇堂クリーニングセンター |
| 髙梨光昭 | ㈱ Side Links |
| 高橋康介 | 高橋こうすけ事務所 |
| 髙橋潤 | ㈱コスモ通信システム |
| 髙橋凌 | ㈱アプローチ |
| 髙見謙輔 | ㈱広田薬品 |
| 田口輝 | ㈲ JJ プランニング |
| 田中洋希 | 社会福祉法人岩手県社会福祉事業団 |
| 田端結 | ジブラルタ生命保険㈱ |
| 田向康人 | ㈱志百家 |
| 田村光宏 | ㈱田清 |
| 千葉潤也 | ㈲二葉建設・カジュアルダイニング HOME |
| 照井淳史 | ㈱岩手ホテルアンドリゾート |
| 照井和弘 | 照井商事㈱ |
| 鳥居さゆみ | 岩手トヨタ自動車㈱ |
| 中嶋政裕 | ピーロート・ジャパン盛岡営業所 |
| 中村沙綾 | ㈱ゴールドラッシュエンターテインメント |
| 波紫聖矢 | ㈱齊藤興業 |
| 橋本敏 | ㈲橋本商店 |
| 羽田流星 | ㈱やよいディライト |
| 晴山敬俊 | 東皐石材㈲ |
| 福田和晃 | プルデンシャル生命保険㈱ |
| 伏見武 | スターダクト㈱ |
| 藤澤平 | ㈱ふじさわ |
| 藤村慶太 | 藤村慶太土地家屋調査士事務所 |
| 藤原勇介 | 東北物産㈱ |
| 藤原良行 | ㈱川村鮮魚店 |
| 北條宏 | ㈱リスクバスターズ総合保険事務所 |
| 細川翔太 | ㈱ラックランド |
| 松浦直人 | 昭和レンタリース盛岡㈱ |
| 松本恭史 | プルデンシャル生命保険㈱ |
| 三浦滉大 | ㈱齊藤興業 |
| 三浦崇 | ㈱カネマン |
| 宮慧 | ㈲アイドカ |
| 宮川雅好 | ジブラルタ生命保険㈱ |
| 宮澤貴明 | ナチュラルコム㈱ |
| 宮野洵弥 | ㈱東北工商 |
| 村上千尋 | 住友生命紫波支店 |
| 村山出 | ユニオン広研㈱ |
| 山内圭介 | ㈱カヴァーロ |
| 山口雄司 | 日産プリンス岩手販売㈱ |
| 米内紘正 | 岩手県議会　米内ひろまさ事務所 |
| 米内美穂 | ㈱真珠苑ホールディングス |

## ご入会までの流れ

**《入会資格》**

①年齢 **20 歳から満 39 歳まで**　②盛岡広域圏に自宅または会社のある方
③青年会議所の趣旨に賛同して頂ける方

**《入会申込》**

①入会申込書をご記入のうえ、**証明写真２枚**（カラー５㎝×５㎝・男性はスーツ着用・女性は正装）と共に提出
②理事またはＪＣ在籍歴２年以上の正会員２名の推薦

**《入会金と会費》**

①**仮会員費：10,000円／月**　②**入会金**（正会員として正式に入会を認められた時）**：30,000円**
③**年会費：120,000円**（分割可）

**《正会員承認までのSTEP》**

仮会員の期間に　**①理事長面接　②例会（月１回開催する例会に３回出席）　③委員会訪問（３委員会以上）　④オリエンテーション１回出席**　①～④の条件を全てクリアして頂き、理事会承認を経て正会員承認となります。

入会申込 → 常任理事会 → 理事会承認 → 仮会員スタート

例会　例会　例会
- 理事長面接出席
- 委員会訪問（３委員会以上）
- オリエンテーション１回出席

→ 常任理事会 → 理事会承認 → 正会員スタート

JCI Junior Chamber International Morioka
一般社団法人 盛岡青年会議所
〒020-0024 盛岡市菜園２丁目6-6 三栄ビル3F
TEL 019-651-3778　FAX 019-654-4476
https://www.moriokajc.org/ 盛岡JC 検索
今すぐ、アクセス!

[発行] 一般社団法人 盛岡青年会議所 〒020-0024 盛岡市菜園2丁目6-6 三栄ビル3F TEL 019-651-3778 FAX 019-654-4476

JCI Junior Chamber International Morioka
一般社団法人 盛岡青年会議所

# 2023年度 入会案内書

出逢いと学び

## JC（Junior Chamber＝青年会議所）とは　～明るい豊かな社会の実現～

JCは『修練』『奉仕』『友情』という三信条のもと、『明るい豊かな社会』の実現を理想とし、世界各国で活動しています。JCには品格のある青年であれば、人種、国籍、性別、職業、宗教の別なく、自由な個人の意志によって入会できますが、20歳から40歳までという年齢制限を設けています。また、JCの理事長をはじめすべての任期は原則的に単年度制であり、１年ごとに様々な役職を経験することで、会員は豊富なトレーニングの機会や実戦経験を積むことができます。つまり、日常の活動の場を通して個々の能力をより良く開発し、さらにはまちの成長に繋がり『明るい豊かな社会』を築きあげるため市民意識変革運動を推進する団体、それがJCです。

## JCを通して、得られる機会

| | |
|---|---|
| **ビジネス** | 異業種交流、マネージメント能力の向上、同業者との情報交換・連携 |
| **地域社会** | 地域の経済・環境・子供の未来に重点をおいた建設的な事業の企画と設営 |
| **個人** | コミュニケーションスキル・リーダーシップ能力の向上、時間管理、人間関係構築、創造性の育成 |
| **国際** | 国際プロジェクトの経験、世界および姉妹JCメンバー・他国の人々との交流 |

## JCI盛岡の事業紹介

マリ共和国助産所建設プロジェクト

次世代育成事業 e スポーツ

大宮中学校との職業観育成事業